



～皆さんの善意ありがとうございます～
大切にに使わせていただきます

1月16日(金)、西有家小学校6年生から市へ車いすの贈呈式がありました。

5年生のときから空き缶プルタブ回収活動を始め、PTAや全校生徒の協力により、さらに、夏休みには地域清掃活動で空き缶拾いを行うなど地道な活動により実現しました。

回収した空き缶は、約540kg、プルタブはペットボトル約90本分で、業者を通じて換金。車椅子を購入しました。

体育館で行われた贈呈式に松島市長が出席し、6年生を代表して松本梨花さんが、「南島原市の体の不自由な人やお年寄りが使ってくれるとうれしいです。人の役に立つことの大切さを学習しました。これからも人の役に立てるように頑張ります」とあいさつし、市長へ贈呈しました。

市長から「いただいた車椅子はみなさん一人ひとりの心がこもった贈り物です。大切にに使わせていただきます」とお礼を述べました。

受賞おめでとうございます



1月17日(土)、長崎ブリックホールで、ながさき子育て支援表彰式が行われ、本市から推薦された荒木隆太郎さん、石橋憲二さん、入江朋広さん、相良裕文さん、林田喜代博さん、藤田康幸さんのそれぞれのご家族が子育て大賞を受賞しました。

これは、5人以上の子どものいる家族を県が審査し、表彰したもので、14家族のうち、6家族が南島原市からの受賞。

また、下田文彦さんが地域子育て支援功労者表彰を受賞されています。

皆さんおめでとうございました。



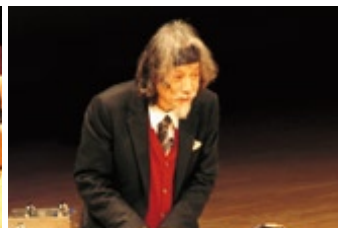
↑2時間目 書道家 武田双雲先生



↑1時間目 盛岡大学教授 橋本裕之先生



↑トークショー



↑3時間目 数学者 秋山 仁先生

1月30日(金)、「今一番受けた授業in南島原市」がありエコレジヨホールで開催されました。この事業は、テレビなどを通じて親しみのある著名人の知識や経験を身近に感じてもらうと企画されたもので、1時間目は、「知らないと恥ずかしい!日本のしきたり」と題して、橋本裕之先生(盛岡大学教授)、2時間目は、「必見!劇的に字が上手くなる極意を学ぼう」(書道家武田双雲先生)、3時間目は、「算数・数学超おもしろショー」(数学者秋山仁先生)の3氏の授業が行われました。その後、山本華世さん(タレント)の司会でトークショーが開催されるなど盛りだくさんの内容となりました。授業では、「しきたり」には家庭教育が含まれている。トークショーでは、「頭のよい人は、いっぱい失敗した人。失敗を恐れないで!」とそれぞれの先生が参加者にエールを送りました。



↑ジオパーク編講義風景



↑世界遺産編講座風景

本年1月と2月、今話題になっている「世界遺産」と「ジオパーク」をテーマに、長崎県教育センターの寺井邦久先生と市教育委員会世界遺産登録推進室、文化財課の職員を講師に招き、『もっと南島原講座(世界遺産編・ジオパーク編)』を4回にわたり開催しました。この講座は、多くの市民の皆さんにふるさとを誇らしさを理解してもらい、本市を訪れるお客さまを市全体で「おもてなし」することを目的にしたものです。両講座合わせて、延べ150人が参加し、世界遺産やジオパークの意義、その史跡やジオサイトの価値について詳しい話を聞き、南島原市のすばらしさをあらためて確認することができました。3月28日には今年度最後の『もっと南島原ツアー第4弾』南島原ふるさとめぐり(詳細は13ページ参照)を開催しますので、皆さん奮ってご参加ください。

南島原市教育委員会主催

「今、一番受けた授業in南島原市」開催

総市民で観光客を、おもてなす、ために

『もっと南島原講座(世界遺産編・ジオパーク編)』



1日目:講義風景↑

2日目は、実技を中心に花の炭焼き体験と、ジャガイモやそうめんなどの地元食材を使った郷土料理づくり体験を行いました。参加者から、「思ったより簡単で、ぜひ民泊を受け入れたい」などの声がありました。体験民泊に興味のある人は、企画振興部商工観光課(☎050(3381)5032)へお気軽にお問い合わせください。

まちの話題

Minami Shimabara City My Town Topics



↑2日目:炭焼き体験



↑地元食材を使ったメニュー

南島原市グリーン・ツーリズム講座

民泊のススメ

1月27日(火)、28日(水)の2日間、第2回南島原市グリーン・ツーリズム講座が、ありエコレジヨホールとエコ・パーク論所原で開催しました。

体験型観光のパイオニアである体験教育企画代表藤澤安良氏を講師に招き、熱心な講義や実技が行われ、約70人が参加。

1日目の講義では、「体験型観光は、体験が目的ではない。人と人との交流を通して、互いに高めあうこと。人間が人間らしく生きるための精神文化の向上の手段である」と力説。「体験」することで、子どもたちの生きる力を育んだ事例や、心を開いた事例も報告されました。

また「観る」観光から「体験型」観光へ世の中が移行していること。地域のありのままを見せることが、訪れる人に懐かしさや新鮮さを与え、そこに住む住民も地域の魅力を再発見するよい機会となり得ること。さらに、交流人口の拡大や地域振興策として、全国的な取り組みが進んでいることを報告されました。

2日目は、実技を中心に花の炭焼き体験と、ジャガイモやそうめんなどの地元食材を使った郷土料理づくり体験を行いました。

参加者から、「思ったより簡単で、ぜひ民泊を受け入れたい」などの声がありました。体験民泊に興味のある人は、企画振興部商工観光課(☎050(3381)5032)へお気軽にお問い合わせください。



「子どもの生活リズムを守り隊」始動!

健康づくり計画「ひまわりプラン」を策定し、健康づくりの取り組みを積極的に進めています。近年、市の乳幼児相談や幼児健康診査からも、子どもたちの生活習慣の乱れ、朝起きられない、欠食、集中力がないなど心身の発達に大きく関わる症状が表れています。

「子どもの生活リズムを守り隊」と名づけ、まず、家庭内の生活のリズムの見直しを図るために、玉峰保育園、北有馬幼稚園、西有家保育所の3団体をモデル的な取り組みとして事業を進めています。その一環として、このほど園児や保護者に対して行われた生活リズム(早寝早起き朝ごはん)の重要性についての講話には多くの参

加があり、参加した保護者からは、「改めて生活リズムの大切さを実感した」「子どもだけでなく自分の生活リズムを見直したい」という声が多く聞かれました。

また、1月下旬から取り組んでいる「早寝・早起きカレンダー」では、「子どもが積極的にお手伝いや身支度をするようになった」という声があがるなど早くも嬉しい結果が出ています。同カレンダーは各家庭で生活リズムの目標が設定できるようにしていて、無理なく楽しく取り組むことができるようになっていきます。

今後は、「生活リズムを守り隊」の波がもっと広まるということです。